

図書館だより

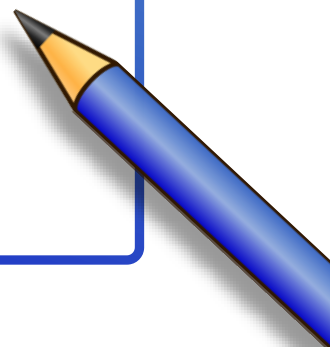
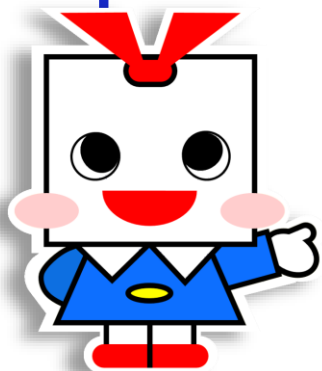
《 鹿児島国際大学附属図書館報 》

The International University of Kagoshima Library

第
42
号

目 次 Contents

- コロナ禍と図書館 久保 禎 p.2
- テーマ展示「図書館のすすめ」 p.3～p.6





コロナ禍と図書館



図書館長・国際文化学部教授 久保 禎

後期がスタートして一ヵ月経ちましたが、一年生の皆さんは新しい環境にすっかり馴染んだところでしょうか？ 上級生の皆さん、とりわけ四年生や大学院修了予定の皆さんにとっては総まとめの学期となりましたが、有意義で充実した日々を送っていますか？ 心配や不安はなおも尽きませんが、体調管理には充分気をつけて、冷静・慎重を心掛けながら、どうぞ元気に日々過ごしてください。

昨年度以降、図書館も新型コロナウイルスの影響により様々な事業が中止や延期になりました。予期せぬ問題に直面したり、対応に苦慮したことも多々ありました。特に臨時休館や時間限定開館を余儀なくされ、皆さんの希望に沿うことができなかったことを大変残念に思っています。学外利用者の方々に対しては今もなおサービスを休止させて頂いているところですが、確かな収束を祈るばかりです。

コロナ禍を通じて新たな展望や解決策なども明らかになってきました。特に ICT（情報通信技術）を活用した取り組みは、これからの新しい様式を考えていく上での大きな指針になると思います。また、大学全体で取り組んでいる DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の機運が、さらに拍車をかけてくれるものと期待しています。デジタルやオンラインを活用することで、あらゆる場所からアクセスできる双方向型学習・研究空間。コロナ後を見据えて、図書館も新たなステージを模索しています。

同時に、対面によるふれあいの大切さが求められていることを改めて実感しています。学生や教職員からの難題を真正面から受け止め、最善の策と一緒に考えてくれる図書館員の真摯な姿。そして解決できた時のお互いの笑顔を垣間見て、これまでの良き図書館の在り方を決して忘れてはいけなかったと思います。今後とも教育・研究環境の向上と充実を目指しながら、学生、卒業生、教職員、そして地域の皆様方から愛される図書館であるよう努力していく所存です。

錦江湾を眺望できる Café & レストラン併設のわれらが図書館。膨大な蔵書や情報検索システム、ラーニングコモンズ（ICT を備えた自習・グループ学習スペース）、マルチメディアスペース、AV コーナー、研究個室、新聞・雑誌コーナー、オーディオルームなど、Wi-Fi 設備の整った環境を大いに活用して、思う存分図書館で過ごしてみるのも案外楽しく、素敵な時間になるかもしれません。感染症対策をしっかりとった上でこの秋、いかがですか？





テーマ展示「図書館のすすめ」



図書館を利用するとき、目的のタイトルや分野以外はなかなか目に留まりにくいもの。そこで図書館では、定期的にテーマに沿った本を選定し、2階テーマ展示コーナーで紹介しています。今年度の4・5月はいつもと趣向を変え、本学の先生方のオススメ本を展示しました。熱い“推し”コメント付きということもあり、多くの学生の利用がありました。返却するときに感想を伝えてくれる学生もあり、盛況に終わりました。「どんな本を読んでいいかわからない」という方が、手に取るきっかけになればと、展示された本を紹介します。

※展示本リストは、次ページ以降に掲載しています。

大学での学びは、図書館(資料と情報)を活用することが不可欠です。

「図書館なんて行かなくてもいい」、「本なんて読まなくてもいい」と思っている人が、展示してある本をきっかけに、「行ってみるのもいいな」「読んでみるのもいいな」と思えるようになってもらえればうれしいです。

企画担当スタッフ 楠元



学長 経済学部
教授 大久保 幸夫

今できることをやればいい

酒井雄哉著

人生は楽しいことばかりではなく、どちらかというと苦しいこと悩むことが多いです。第1志望校に入学できなかった、友達と意見が合わず喧嘩した、何をやってもうまくいかないなど、人生はピンチの連続です。そんなとき、著者は、頭で考えてばかりいるより、今できることを体を使いながらひたすらやる方がよいと教えています。人生の歩み方がわかる本です。

副学長 国際文化学部
教授 飯田 伸二

方法序説

デカルト；谷川多佳子(訳)

「序説」と訳してある discours という言葉は、もともとフランス語では「おはなし」という意味です。哲学者デカルト先生が優しく自身の知的歩みを振り返るおはなしを本にしたものなので、本来はとても読みやすい書物です。何よりも100ページ程度の薄い本なので、頑張れば授業の合間に読めてしまいます。皆さんの哲学に対する考えが変わると想います。

福祉社会学部
准教授 茶屋道 拓哉

ぼくはイエローでホワイトで、 ちょっとブルー

the real British secondary school days
ブレイディみかこ著

近年、様々なシーンで耳にするようになった「分断」。イギリスに住む著者の子どもがリアルに体験する分断・格差の構造と、そんな社会に対する子どもなりの解釈のプロセスがポップに描かれた一冊。障害・貧困・多様性といったことを学んでいる社会福祉学科の学生におすすめ。

国際文化学部
准教授 松尾 弘徳

先生はえらい

内田樹著

私が本学の教員になって間もないころに、当時の在学生から薦められたのが内田樹の著作でした(その学生はのちに、高校の国語教員になりました)。爾来、その説教くも押しつけがましくもないかたちで読み手に多くの示唆を与えてくれる内田の文章の虜になりました。中でもこの本は「主体的に学ぶ」ことの本質的意味を伝えてくれる良書だと思います。自動車教習所の指導員がなぜ「恩師」となりえないのか、それとは逆に夏目漱石『こころ』に出てくる何も教えてくれない「先生」に対しなぜ主人公は畏敬の念を抱いてしまうのか、そんなことを知りたい方はぜひこの本を手にとってみてください。

書名／著者名	コメント	資料 ID/請求記号/所在
--------	------	---------------

学長 経済学部教授 大久保 幸夫

『新・大学でなにを学ぶか』 上田紀行編著	新入生の皆さんは、これから始まる 4 年間に期待を膨らませつつも、大学という未知の世界に対して不安を抱かれていることでしょう。この本を読むことにより大学では「どんなことを学ぶのか」「どういう風に学ぶのか」「大学とはどういうところか」「大学と高校での学びの違いは」などについて知ることができます。在学生にもお勧めです。	10005328295 188.44//AY 3階--一般書架
『データサイエンス入門』 竹村彰通著	スマートフォンの普及により人々の行動歴がネットに蓄積され、緊急事態宣言が出る前と後では人出が何%減ったかわかるなど、ビッグデータから非常に有益な情報が得られる時代になりました。このように現在はデータを処理し分析するだけでなく、データの価値を引き出す能力が必要です。本書でデータサイエンスの基礎をおさえ、その後の学び方を知りましょう。	10005240680 417//TA 3階-文庫・新書

経済学部准教授 奥平 敦也

『Structure and interpretation of computer programs』 Harold Abelson and Gerald Jay Sussman, with Julie Sussman ; foreword by Alan J. Perlis	プログラムの書き方の本として定評ある名著だと思います。人によって好き嫌いが分かれるようですがとても参考にになりました。 訳本も出ています。 ↓ 「計算機プログラムの構造と解釈」、和田英一（訳）、翔泳社	10002791304 007.64//AH 3階--一般書架 10005145587 007.64//AH 2 階--一般書架
『サハラの砂、オーレスの石：アルジェリア独立革命史』 アリスティア・ホーン著 北村美都穂訳	アルジェリア独立運動をフランス植民者の動きを中心に書いたものです。考えさせられるものがあります。独立後のことはあまり書いてありません。	10004289784 243.3//AH 3階--一般書架

経済学部准教授 松本 俊哉

『オリガ・モリソウナの反語法』 米原万里著	子ども時代にブラハで出会った舞踏教師の半生を知ろうと調査に乗り出した主人公。知りえたのは、ソビエト現代史のなかで自由を奪われた女性の過酷な人生の真実。読むとズドンと来ます。「現実」を現実以上に描いた小説です。	10003498254 913.6//YM 3階--一般書架
『もの食う人びと』 辺見庸[著]	世界の人びとの生活を「食」を切り口に描いたルポルタージュ。本書をとおして地球を一巡りすると、世界がこれまでとは違った姿で見えてきます。雑踏の中から、歴史の闇から、この世の真実に迫るルポルタージュの醍醐味を堪能できます。	10005327343 916//YH 3階-文庫・新書
『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』 岡本太郎著	バタイユを師にもつ呪術的革命家の太郎。孤独を恐れずに日本社会の常識と闘ったその思想と実践に鼓舞されること間違いなし。「芸術」の見方もガラリと変わります。壁にぶち当たった人には『青春ピカソ』、進路に迷う学生には『自分の中に毒を持って』もお勧めです	10005327331 704//OT 3階-その他文庫・新書

福祉社会学部教授 西谷 憲明

『近代スポーツ批判』 中村敏雄著	私が学生時代に講義の教科書として取り上げられた本で、体力づくりや競争中心の体育の授業の中で取り上げられるスポーツが、社会の思想性を含み持ちながら誕生し、能力的弱者を隅に追いやる性質を内に含み持つため、批判的に摂取するという現代的な中心的課題の一つを提示している本です。体育嫌いの人や教育者を目指す人にぜひ読んでほしい本です。	50000984737 780.4//Na 地下-和書
『恋人とつくる明日：育て合う安心と信頼のための 9 章』 村瀬幸浩著	現在恋人がいる人もいない人も異性とどう向き合えばよいのかを、考えることができる本です。著者の大学での講義内容をいくつかの柱を立てて要約しながら紹介し、それを学生たちがどう聴き、何を考えたのかを理解してもらうために、多くの学生のショートレポートが紹介されています。現代の性について、身近な問題として理解を深められる本です。	10004138531 367.9//MY 2 階--一般書架

福祉社会学部教授 林 岳宏

『フラニーとゾーイー』 サルンジャー[著] 野崎孝訳	サルンジャーといえば、『ライ麦畑でつかまえて』や『ナイン・ストーリーズ』が有名だと思います。サルンジャーの本を初めて読む場合は、そちらの方がいいかもしれません。しかし、兄が妹を救おうと、あの手この手で妹に語りかけ、最後の最後でその思いが伝わる様子から得られるカタルシスは、この本でしか味わえない独特のものがあると思います。	10002055505 908//S.11/11-5-2 3階-文庫・新書
----------------------------------	---	---

書名／著者名	コ メ ン ト	資料 ID/請求記号/所在
福祉社会学部准教授 茶屋道 拓哉		
『正義の教室：善く生きるための哲学入門』 飲茶著	「焼きそばパンの転売はなぜ正義に反するのか」といった身近な話題から、非番時に娘の通う保育園の火災に遭遇した消防士が、「他の子どもたちの命と自分の娘の命を天秤にかけける葛藤」など、様々なシーンをもとに倫理や平等、正義、自由について考える。高校生の生徒会での闊達な議論が舞台となっており、わかりやすく哲学を学べる一冊。	10005328360 158//YA 3階-一般書架
『「雑」の思想：世界の複雑さを愛するために』 高橋源一郎、辻信一編	彼らの前著『弱さの思想』に続く対談集。対人援助において、個性性を大切にしなければならないことは重々わかっているつもりでも、単純化して理解しようとするプロセスの中で、個性性の源となる「雑」を消してしまいます。社会福祉学科の学生や大学院生で研究方法（例えば質的研究）を学習する際に読んで欲しい一冊。	10005328357 914.6//TG 3階-一般書架

福祉社会学部講師 永富 大輔

『子どもが育つ魔法の言葉』 ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 石井千春訳	私が学生時代に読んだ本です。詩の「子は親の鏡」の内容を読んで、子どもは親だけでなく教師も見て育っているだろうな、とげとげした学級で育って子どもにも悪影響だよな、などと考えさせられたことを覚えています。教育を専門しない学生にも、一度は読んで欲しい本です。	10003092620 379.9//ND 1階-和書
『漫画君たちはどう生きるか』 吉野源三郎原作 羽賀翔一漫画	恥ずかしい話、何度も鳥肌が立ちながら、涙を浮かべながら読んだ本です。ぜひ、というか絶対、一度は読んで欲しい本です。それぞれ感じることはあると思いますが、私は「偉大な人物とはどんな人か」の内容が好きです。	10005232516 159.5//YG 2階-経済学選
『ヒトの本性：なぜ殺し、なぜ助け合うのか』 川合伸幸著	ヒトの「心」ができるまでの進化の過程が描かれています。「人間ってすごい」って思えたり、「そうだったんだ！」ってびっくりしたりするエピソードがたくさん詰まっています。一番印象的だったのは、「なぜ1歳児でもおとなの手助けをするのか？」の項目かな…。なぜって、疑問がわかると面白いですよ。	10005328306 143.8//KN 3階-文庫・新書
『30日で学ぶ心理学手帳』 植木理恵監修	心理学の有名な実験や用語をイラストを用いながら説明しています。1つのテーマで6ページぐらいで説明しているため、要点を整理する上でとても良いと思います。資格取得のための勉強や授業以外で心理学を学びたい学生におすすめです。	10005328345 140//NI 3階-一般書架
『Factfulness：10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』 ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著 上杉周作、関美和訳	現在の世界の情勢がよく分かります。イメージや偏見で貧しいと思っている国が、実はしっかりと医療や教育が整ってきている事実があります。きちんとデータなどの情報を自分で収集し、客観的に判断することの大切さが分かります。	10005317024 002.7//RH 2階-一般書架
『3福祉士の仕事がわかる本：これから目指す人・働く人のための』 赤羽克子編著	社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士といった3福祉士の資格の取り方、取った後にどのような仕事があるのか、それぞれの仕事の特徴的な内容などが丁寧に書かれています。資格を取りたいけど、悩んでいる学生、就職活動でどのような分野があるのか知りたい学生におすすめです。	10005322393 369.1//AK 2階-院学選

副学長 国際文化学部教授 飯田 伸二

『谷間のゆり』 バルザック作 宮崎嶺雄訳 『ゴリオ爺さん（上）（下）』 バルザック作 高山鉄男訳	一応タイトルをあげましたが、バルザックなら何でもいい。人類が初めて近代資本主義を経験した19世紀前半のパリで彼は膨大な数の小説を残しています。格差社会、拝金主義社会を改善・改革することももちろん大事です。しかし、そうした社会で人生をスタートさせる若者には、もしかするとそうした社会がいかに残酷な社会なのかを知ること、そして、そこで生き延びるにはどう行動すべきかを学ぶこと（実践するかどうか皆さんにお任せします）の方が、もっと大切なのではないのでしょうか？ バルザックの各ページはそうした切実な問いに対する、生きた答案です。	10003063643 953//BH 3階-文庫・新書 10002662961 10002662973 953//BH 3階-文庫・新書
『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』 『戦争まで：歴史を決めた交渉と日本の失敗』 加藤陽子著	日本学術会議の会員任命問題で著者の名前を聞いたことがある方も多いかもしれませんが、この2冊は著者が現役の中高校生（フツーの中高校ではなくて、有名進学校ですが）に向けて語った授業を文章化したものです。なので、予備知識無しに、戦争に至るまでに日本、中国を初めとする各国がどのような見通しの元に、どのようなプロセスを経て、何を選択したのかを丁寧に追うことができます。結果は分かりきっているのに、サスペンス小説のような面白さがあります。	10005164296 210.6//KY 3階-文庫・新書 10005328321 210.7//KY 3階-一般書架

書名／著者名	コメント	資料 ID/請求記号/所在
国際文化学部教授 伊藤 綾		
『Au オードリー・タン：天才 IT 相 7 つの顔』 アイリス・チュウ、鄭仲嵐	コロナ禍におけるマスク配布対応アプリの普及で世界的に有名になった台湾のデジタル担当相。IQ180、中卒、起業家、トランスジェンダー、天才シビックハッカーetc.今の時代を反映するような多様性を内包する彼女の生き方や物事の捉え方は、これからの世界の指針を示しているように思います。	100005327316 289.2//CA 3階一般書架
『聖女・悪女伝説 神話・聖書編』 喜多尾道冬著	神話や聖書に登場する聖女・悪女の生き様が、音楽・文学・美術の面から豊富な図版とともに紹介されています。西洋の宗教や芸術に関する教養を楽しく身につけることができます。	10005327610 723//KM 3階一般書架
『独学大全：絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための 55 の技法』 読書猿著	「学ぶ」ための 55 の技法が分かりやすく紹介されています。巻末付録の「独学困りごと索引」で今の自分に必要な技法が素早く見つけれられます。「勉強ってどういうふうにしたらいいの!？」とお悩みの学生は、一度手に取ってみることをお勧めします。	10005327304 379.7//DO 2階一般書架

国際文化学部教授 村瀬 士朗

『小森陽一ニホン語に出会う』 小森陽一著	小学生の時に、東西冷戦時代のチェコスロバキアのプラハに移住し、突然、ロシア語のインターナショナル・スクールに通うことになった筆者の異文化体験を語った本です。数年の後、日本に戻るようになった筆者は、祖国のはずの日本で、更に強烈なカルチャーショックを受けて苦しむことになり、深刻な「国語」嫌いになります。筆者は世界的に知られた日本近代文学の研究者。「国語」嫌いの筆者がどうして日本文学の研究者になったのか。地域と世界の言語と文化を学ぶ国際大学の学生の皆さんに、是非読んでいただきたい。	10003686571 810.4//KY 3階一般書架
『ことばと国家』 田中克彦著	私たちは、自分が使っている言葉を、何の疑いもなく「国語」と呼んでいます。ことばと国家を単純に結びつける、そのような考え方の歪みや偏りを教えてくれるのがこの本です。ことばの学習を通じて異文化理解を学ぶ、国際大の学生の皆さんに、是非、読んでいただきたい本です。	10001233208 081//L3//175 3階文庫・新書

国際文化学部准教授 内山 仁

『週末台湾でちょっと一息』 下川裕治著	入念に準備された（お金もかけた）旅（留学）もいいが、こういう旅もいい。こういう旅でこそ学べることもある。	10005031686 292.2409//SY 3階文庫・新書
『あん』 ドリアン助川著	「あん」はどら焼きのあま〜い「あんこ」（餡子）のこと。商店街のどら焼き店「どら春」を舞台に、これを読めばきっとあなたもどら焼きを食べたくなる。甘さについて考える。もしかしたら「あん」を作りたいくなるかもしれない。著者の短編集『多摩川物語』（ポプラ文庫）もおすすめ。	10005046156 913.6//DS 3階一般書架
『選ばなかった冒険：光の石の伝説』 岡田淳作	学校を舞台にしたファンタジーを読むなら岡田淳の右に出る者はいない（と思う）。現実と異世界の二重生活を描いた作品。小学校教師（図工専科）としての著者の豊かな経験があるからこそ深い作品である。ネットゲームで友達と戦う現代の子どもの状況を踏まえて読んでみたい。	50002070591 91//オ 2階児童書コーナー

国際文化学部准教授 木村 拓

『両班（ヤンバン）：李朝社会の特権階層』 宮嶋博史著	朝鮮時代（1392-1910）の歴史に関心があれば、両班（ヤンバン）という言葉聞いたことがあるかもしれない。朝鮮時代の両班といえば、広く支配エリート層の人々のことを指すが、ある人を両班と見なすか否かは、相対的・主観的に決められた。この点が両班の範囲や意味に流動性を与え、それを捕捉しがたくしている。本書は、両班の範囲や意味の流動性に着目しながら、朝鮮社会の変動の様相を分かりやすく説明してくれる。歴史学に興味があれば、ぜひじっくりと読んで、朝鮮の歴史の面白さ・奥深さを味わってみたい。	10002537461 221.05//MH 3階文庫・新書
-------------------------------	--	--------------------------------------

国際文化学部准教授 松尾 弘徳

『探検!ことばの世界』 大津由紀雄著	あなたは「にせたぬきじる」「にせだぬきじる」の二語の意味の違いが、言語のしくみからどのように産出されるのかを説明できますか？本書では、言語が持つ普遍性や創造性のおもしろさについて、具体的言語事象を交えながら初学者にもわかりやすく書かれています。この本は大学院生の頃に読み、このまま研究を続けるかどうか悩んでいた私に「言語（とその研究）はやっぱり楽しい!」と感じさせ、その後の人生を決めてくれた思い出深い一冊です。続編にあたる同じ著者の『ことばに魅せられて 対話篇』（ひつじ書房、ISBN：978-4894763777）もおすすめです。	10004127056 810.4//OY 集密別置
-----------------------	---	----------------------------------